

FD 委員会便り

2025【第1号】

2025年 9月9日発行

新潟県立大学 FD 委員会

令和7年度前期 公開授業が開催されました

7月に今年度一回目となる公開授業を開催いたしました。今回はゲスト演奏家お二人にもお越しいただいての教室でのライブ演奏を含む迫力満点の授業でしたが、それ以外にも様々な教材の組み合わせや授業中の受講学生たちとのオンラインツールを活用したリアルタイムな遣り取りなど、とてもダイナミックな授業で受講生を終始引き付ける工夫がふんだんにされており、教員として非常に学ぶことの多い公開授業でした。学期末も近いお忙しい時期にも関わらず授業の公開を快くお引き受けくださった石井玲子先生には心より厚く御礼申し上げます。以下、当日の授業の様子とご参加くださった教員の皆様からのご意見の一部をご紹介します。

なお、FD 委員会では引き続き、教員相互の学びのための公開授業を行って参ります。ぜひ多くの先生方にご参加、さらには授業公開へのご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

【日時・場所】7月11日（金）2限 コモンズ3号館5105教室

【教職員参加者数】9名

【授業科目】西洋音楽

【担当教員】人間生活学部 子ども学科 石井 玲子 教授

※ゲスト演奏者：佐々木 友子 氏（ヴァイオリン）、平野 佳恵 氏（歌・ソプラノ）

【対象学科・学年】基盤科目（現代教養科目・歴史と文化）・全学1年生

【テーマ】第13回 後期ロマン派から20世紀音楽へ

【授業のねらい】

19世紀後半から20世紀初頭の音楽変革期における3つの重要な潮流（国民楽派、標題音楽、調性の崩壊）を実際の音楽体験で理解する。

【当日の授業の概要】（7月11日公開授業）

19世紀後半～20世紀初頭の音楽の潮流と展開を4つの主題に分け、それぞれを代表する作曲家とその楽曲を教員（ピアノ）やゲスト演奏者による生演奏や動画により視聴しつつ、それぞれの時期の音楽の特徴や次の時代の展開に及ぼした影響などについてスライドも用いつつ解説されていました。なお本科目の授業では毎回、受講学生が事前にオンデマンド教材と小テストを通じて基本解説や演奏映像を学んだうえ授業に出席、教室では学生からの質問やコメントをもとに解説を加えつつ映像や演奏により音楽を体験するという反転学習の手法により授業が行われており、授業中もオンラインツール（Padlet）を通じて学生が常に質問や意見を出しつつそれらを教室全体で共有しつつ授業が進められていました。当日の授業は普段よりも教材分量（視聴・演奏楽曲数など）が豊富なうえに学生の関心と集中力を途切れさせない様々な手法や工夫が施されたものでしたが、授業は時間通り90分ぴったりで終了となり、教員の綿密な計画と周到な準備があったことが感じられました。（なお、当日の授業のもう少し詳しい概要については、石井先生が当日参加の教員に配布くださった資料（別添）をご参照ください。）

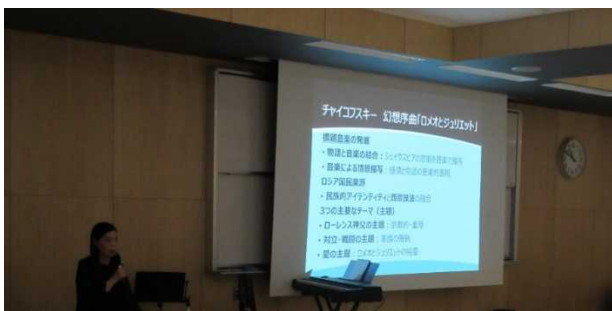
参加者アンケートより（一部抜粋）

【1. 今回の授業の感想をお聞かせください。】

- ・実際の演奏を聴きながら、西洋音楽の変遷を辿れている感じがして、非常に良い授業だと思います。また、授業の流れを崩さずに生徒の意見をリアルタイムに聞けるシステムもよい取り組みだと感じました。
- ・教材を多面的に理解・体験させる手法、大教室・大人数での授業にも関わらず学生を能動的に授業に取り組んだり参加したりさせる工夫がふんだんに施されており圧倒されました。毎年受講希望者殺到の本学屈指の人気授業である理由がよく分かりました。
- ・ *The class presented an excellent balance of lecturing and class demonstration. It successfully kept student attention throughout the 90 minutes.*

【2. 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。また、授業に生かしたいと思ったことなど、御自由に御記入ください。】

- ・本物に触れることの重要性を痛感しました。
- ・自身の授業を振り返って、科目の性質上やむなき部分もあるとは言え、教員→学生という一方向にコミュニケーションが偏っていることを大いに反省させられました。
- ・大教室授業において学生からのインプット（質問、コメント等）をリアルタイムに得る手段として Padlet 等のオンラインツールの活用は有効（学生の心理的障壁が小さくて済む？）なように思われましたので、自身の授業での活用についても模索してみたいと考えます。
- ・ *I will explore how I can better use multimedia resources to supplement my lecturing.*



公開授業配布資料

新潟県立大学「西洋音楽」 後期ロマン派から 20 世紀音楽へ

担当：石井玲子

【授業形式】

反転授業形式：学生は事前に、オンデマンド映像＋小テストで基本解説や演奏映像を視聴済み。対面授業では、学生の質問への回答、映像視聴、生演奏を聴くことによる体験的理解と発展的解説を実施。

【7 月 11 日の授業のねらい】

19 世紀後半から 20 世紀初頭の音楽変革期を実際の音楽体験で理解する。

3 つの重要な潮流：①国民楽派 ②標題音楽 ③調性の崩壊

【授業構成】

第 1 部：ロマン派の完成形

- ・ ショパン：ノクターン第 20 番 遺作（生演奏） → ロマン派ピアノ音楽の極致
- ・ チャイコフスキー：幻想序曲「ロメオとジュリエット」（映像） → 標題音楽とロシア国民楽派

第 2 部：調性の変革

- ・ ワーグナー：「トリスタンとイゾルデ」より「愛の死」（映像） → 調性崩壊への道筋
- ・ ヴォルフ：メーリケ歌曲集より 2 曲（生演奏） → 詩と音楽の精密な結合

第 3 部：国民楽派の展開

- ・ ブ람ス：ハンガリー舞曲第 5 番（生演奏） → 19 世紀的民族音楽受容
- ・ バルトーク：ルーマニア民族舞曲（生演奏） → 20 世紀アプローチ

終曲：時代を超えた音楽

- ・ 武満徹：「小さな空」「うたうだけ」（生演奏） → 20 世紀日本を代表する作曲家・国際的な評価
 - ・ ヴィタリー：「シャコンヌ」（生演奏） → 時代を超越した美しさ
-

【教育方法上の特色】

音楽体験中心の学習：授業やオンデマンドを通じて、中世から 20 世紀までの各時代における音楽の特徴や各時代の楽曲が作曲された時代背景・社会背景・文化的背景を理解するだけでなく、音楽体験（演奏映像視聴・生演奏）を通じて、「聴く」ことを重視。

比較学習による理解促進

- ・ ブ람ス（19 世紀） vs バルトーク（20 世紀）：民族音楽へのアプローチの変化
- ・ 調性の段階的变化：ショパン → ワーグナー → 20 世紀音楽へ

反転授業の効果 事前学習（基本知識） → 対面授業（体験的理解） → 知識定着から感性育成へ

【「西洋音楽」の学習到達目標】

1. 音楽史的変遷過程の理解
2. 異なる時代・地域の音楽様式の聴き分け
3. 音楽と社会・絵画・建築・文学等の文化との関係性の認識
4. 「伝統」と「革新」の関係の考察